

2018年「地元企業に学ぶESD」

回数	年月日	講義者	主題
1	2018年10月3日	中島清隆・山崎憲治	オリエンテーション「ESD×起業とは何か？」授業展開のオリエンテーション。この講座の目的と課題を明示する。担当する講師の紹介、達成課題と参考資料を示す。
2	10月10日	山崎憲治	環境保全と地域の産業をつなぐESD。三陸の海を素材に、震災復興と豊かな海を結びつけた持続可能な社会を考えてみる。その具体化には何が問われているのか。次の社会を築く上で何が問われなくてはならないかを提起。
3	10月17日	田村満	なつかしい未来創造株式会社社長「復興に向けて復興に向けて地域に根付く企業のあり方を問う」「地域の企業をつぶさない、雇用を確保する」を合言葉に中小企業の新たな取り組みと可能性を現場から報告
4	10月24日	新沼茂幸	ヤマニ醤油株式会社社長 イノベーションをおこす。起業の豊かさとその可能性を、自らの経験から探る。
5	10月31日	中村哲雄	「林業の現状と発展」葛巻の林業 林業に明日はあるのか？ 持続可能な豊かな国土づくりに林業が果たす役割。
6	11月7日	中村哲雄	「新しい学びを求めて」。牧場が学校になる？ 動物や自然と直接触れ合うなかから、新たな学びが展開する。
7	11月14日	相模貞一	震災を経て学力のありかたを考える。宮古第一小学校での震災経験を踏まえ、田野畑村教育長として現場から地域の教育の可能性を提起。
8	11月21日	中村和子	地域の食材を用いた地域おこしと女性の活動。酪農を進める一方で、葛巻で酪農に携わる女性のグループを組織し、ジェラート工房食を提供する起業を展開している。過疎地域で女性がその地域にかかわって起業する面白さと厳しさを展開してくれる。地域おこしを「虫の目」で見つつ、一步一步すすむとともに何が成長していくのかを学ぶ。
9	12月5日	八重樫真純	「農業の現実と可能性」 農民から見た岩手と日本の農業。環境保全と農業の発展。
10	12月12日	齊藤俊明	さいとう製菓株式会社 「復興に向けて企業のあり方・企業のボランティア活動、企業と地域社会」。企業の復興が地域の復興にどうつながるか、地域の復興を具体的に導く企業活動の現実に学ぶ
11	12月19日	小林昭栄	JAたろう漁業協同組合組合長 被災地漁業の本格復興に向けた取り組み。地域の産業としての漁業の復興に問われているもの。
12	2019/1/9	高橋源英	北上市平和祈念展示館 「平和について考える」 農民兵士とは、なぜ北上に平和記念展示館が生まれたのか。農民兵士の「声」を聴いてみよう。
13	2019/1/16	岩渕宣輝	特定非営利活動法人太平洋戦史館会長理事 「平和について考える」。「忘るまじ、語り継ごう、国際交流」を柱とするNPO法人太平洋戦史館活動が続ける中から、学生に訴える。
14	2019/1/23	畠山重篤	京都大学フィールド科学教育センター社会連携教授。「森は海の恋人」著者・漁師・京大教授。山・流域・海をトータルにとらえる。
15	2019/1/30	中島清隆・山崎憲治	「レポート作成準備とグループ・ディスカッション」。Sustainabilityの実現に向けた起業プラン案を作成し、複数のグループ内で意見交換を進め、レポート作成の準備を行う。